

①「防災基礎」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	危機管理総論	維持	危機管理総論	座	防災・危機管理の基本的な考え方を学ぶ。	・ 防災・危機管理の基本的な考え方を説明できる。
2	防災行政基礎	統合	新規	座	防災活動全体の流れと個々の活動の基礎的な知識を学ぶ。	・ 防災活動全体の流れについて説明できる。 ・ 防災活動の概要について説明できる。
3			新規	座	災害対策基本法・災害救助法 など助構造や適用範囲、権限 の概要を学ぶ。	・ 防災活動に関連する法令の概要を説明できる。
4			新規	座	防災計画の法的な位置づけと 防災基本計画の内容を学ぶ。	・ 防災計画の概要について説明できる。
	災害法体系と防災計画	拡充	防災計画	座		
5	地震・津波発生メカニズムと実態（事例）	維持	地震・津波発生メカニズムと実態（事例）	座	自然災害の発生メカニズムと、災害による被害を理解し、地方公共団体の対応を学ぶ。 ・ 地震・津波災害	・ 地震と津波災害のメカニズムとその被害、及び対策について説明できる。
6	風水害のメカニズムと実態（事例）	維持	風水害のメカニズムと実態（事例）	座	・ 風水害	・ 風水害（洪水、土砂災害、高潮、竜巻）のメカニズムとその被害、及び対策について説明できる。
7	火山災害のメカニズムと実態（事例）	維持	火山災害のメカニズムと実態（事例）	座	・ 火山災害	・ 火山災害のメカニズムとその被害、及び対策について説明できる。
8	災害対応過程と態度を学ぶ	維持	災害対応過程と態度を学ぶ	演	災害発生前後の地方公共団体の対応について具体的な事例に沿って学ぶ。	・ 災害発生前後に、必要な行政の対応の流れを、具体的に説明できる。
9						
10	全体討論・閉講	維持	全体討論・閉講	演	防災力アップのため、災害対応の基本について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。

②「減災対策」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元	平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学 習 目 標
1	減災対策総論	減災対策総論	座	自助・共助・公助による減災や被害予測	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自助・共助・公助による減災対策の概要を説明できる。 ・ 被害想定の方法、ハザードマップの活用手法を説明できる。
2					<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の各省庁が行う減災対策の概要および最新の動向について説明できる。
3			座		<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害ボランティアとの連携について説明できる。
4	企業防災	企業防災	座	企業が災害時に果たすべき役割を認識し、企業と行政が連携した防災活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の防災活動の推進施策について説明できる。 ・ 災害時の企業の果たすべき役割について説明できる。
5	減災対策ワークショップ	減災対策ワークショップ	演	地方自治体の防災行政における自助・共助・公助の実践的な推進の仕方についてワークショップ形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自助・共助・公助の実践的な推進のしかたについて説明できる。
6	行政のBCM	行政のBCM	座	行政におけるBCMの意味と策定のポイントについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政のBCMの意味を説明できる。 ・ 行政のBCPの策定・運用のポイントを説明できる。
7	住民啓発・防災教育 ・災害教訓の伝承	住民啓発・防災教育 ・災害教訓の伝承	座	住民啓発、防災教育、災害教訓の伝承について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災についての住民啓発と防災教育の方法と取り組み事例について説明できる。
8	住民啓発・防災教育、災害教訓 の伝承ワークショップ	住民啓発・防災教育、災害教訓 の伝承ワークショップ	演	住民啓発や防災教育の実践の方法をワークショップ形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災についての住民啓発の実践の方法を説明できる。
9	自主防災活動 ・地区防災計画	自主防災活動 ・地区防災計画	座	自主防災活動の実態とその促進策、地区防災計画の意について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災活動の促進対策を説明できる。 ・ 地区防災計画の策定手法を説明できる。
10	全体討論・閉講	全体討論・閉講	演	減災対策について学んだことを、受講者が自らの地方自治体でどのように反映させるのかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。

③「訓練企画」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	訓練企画の枠組	維持 →	訓練企画の枠組	座	災害対応や防災に関する訓練企画の全体像と訓練手法にはどんなものがあるかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応や防災に関する訓練や演習の位置づけを説明できる。 災害対応や防災に関する訓練や演習の企画の考え方を説明できる。
2	訓練企画手法	維持 →	訓練企画手法	座	防災訓練の企画手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応や防災に関する訓練や演習の手法を説明できる。
3	訓練事例	維持 →	訓練事例	座	国や地方公共団体が実際に実施している訓練の事例を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 実際に行われている防災訓練の概要や事例を説明できる。
4	訓練企画運営実践Ⅰ 討議型図上演習 (エスノグラフィー演習)	維持 →	訓練企画運営実践Ⅰ 討議型図上演習 (エスノグラフィー演習)	演	訓練手法のうち討議型図上演習の一つであるエスノグラフィー演習を経験し、個人を対象とした訓練企画の入り口である災害対応の疑似体験演習の企画運営の考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 討議型図上演習（エスノグラフィー演習）の内容を説明できる。
5						<ul style="list-style-type: none"> 討議型図上演習（エスノグラフィー演習）の企画の考え方を説明できる。 討議型図上演習（エスノグラフィー演習）の評価の考え方を説明できる。
6	訓練企画運営実践Ⅲ 状況付与型図上演習	維持 →	訓練企画運営実践Ⅲ 状況付与型図上演習	演	訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである災害対策本部運営訓練を経験し、災害対応組織を対象とした災害発生直後の初動対応訓練の企画運営の考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 状況付与型図上演習の内容を知る
7						<ul style="list-style-type: none"> 状況付与型図上演習の企画の考え方を知る 状況付与型図上演習の評価の考え方を知る
8	訓練の運営、 評価・改善手法	維持 →	訓練の運営、 評価・改善手法	演	訓練の運営から訓練結果の評価と既往の計画等にフィードバックする方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応や防災に関する訓練や演習の評価・検証方法を説明できる。
9						<ul style="list-style-type: none"> 災害対応や防災に関する訓練や演習のフィードバックの考え方を説明できる。
10	全体討論・閉講	維持 →	全体討論・閉講	演	防災力アップのため、訓練企画について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

④「警報避難」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学 習 目 標
1	警報避難対策の枠組	維持 →	警報避難対策の枠組	座	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 警報等の伝達及び避難誘導の目的、実施主体と役割について説明できる。 警報等の伝達及び避難勧告等の判断・伝達の流れについて説明できる。
2	避難勧告ガイドライン	維持 →	避難勧告ガイドライン	座	避難勧告ガイドラインについて学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 住民等の避難行動の考え方について説明できる 避難準備情報や避難勧告等の判断に必要な考え方を説明できる。 避難勧告等を住民に伝達し、周知するための伝達方法について説明できる。
3	警報等の種類と内容	維持 →	警報等の種類と内容	座	気象庁、国交省、都道府県から発表される警報等の種類と内容を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 注意報と警報、特別警報の意義付けと意味について説明できる。 警報等の入手・伝達の方法と手段について説明できる。
4	避難場所・避難所の認定	維持 →	避難場所・避難所の認定	座	住民等の避難行動の目的となる避難場所・避難所の種類とその設置要件を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所・避難所の種類と内容について説明できる。 避難場所・避難所の認定の方法について説明できる。
5	避難場所・避難所の適否判断の実務	維持 →	避難場所・避難所の適否判断の実務	演	災害ごとに避難場所・避難所の適否判断をするうえでの行動を演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所・避難所の適否判断の基本的な考え方について説明できる。 避難場所・避難所の適否判断を適切に行うためのポイントを説明できる。
6	土砂災害における警報と避難	維持 →	土砂災害における警報と避難	座	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の実務について説明できる。
7	広島土砂災害の事例に学ぶ	維持 →	広島土砂災害の事例に学ぶ	演	広島土砂災害の事例から土砂災害における警報と避難について、その実態を演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害における警報と避難の事例を説明できる。
8	風水害における警報と避難	維持 →	風水害における警報と避難	座	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難の実務について説明できる。
9	風水害におけるタイムライン計画	維持 →	風水害におけるタイムライン計画	演	風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 風水害における警報と避難のタイムライン計画の作成方法について説明できる。
10	全体討論	維持 →	全体討論	演	防災力アップのため、警報避難について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

⑤ 「物資物流・広域行政」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	救援物資調達・供給の枠組	維持	救援物資調達の 実務と課題	座	被災者への救援物資の調達に関する実務と課題について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急物資の民間企業・団体からの調達の実態について説明できる。 緊急物資を民間企業・団体から円滑に調達するための留意点を説明できる。 緊急物資を民間企業・団体から円滑に調達するための備えを説明できる。
2	物資調達演習	維持	救援物資輸配送の 実務と課題	座	被災者への救援物資の輸配送に関する実務と課題について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急物資の輸配送の実態について説明できる。 緊急物資の輸配送を民間企業・団体と連携して行う際の留意点を説明できる。 緊急物資の輸配送を円滑に行うための事前の備えを説明できる。
3	交通の確保	維持	警察災害派遣隊の活動と 緊急輸送路の確保	座	応急期における警察災害派遣隊の救助活動の概要と救援物資の輸配送等で必要となる緊急輸送路の確保のための交通規制や緊急車両の手続きなどを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 警察災害派遣隊の救助活動の概要について説明できる。 災害発生時の緊急輸送路の確保の実態について説明できる。 緊急通行車両等の申請手続について説明できる。
4	緊急輸送	維持	交通の確保	座	救援物資の輸配送等で必要となる道路、港湾、鉄道、空港などの交通確保について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 交通確保対策の概要について説明できる。 災害発生時の道路、海上、鉄道などの交通確保の実態について説明できる。 交通確保のための国と被災地方公共団体の役割について説明できる。
5	救援物資調達・供給 の実務と課題	維持	物資物流演習	演	災害時の救援物資の調達から輸送・保管・配布に至る一連の活動における留意点などを演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 救援物資の調達業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 救援物資の倉庫業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 救援物資の輸配送業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。
6	広域的な応援体制の枠組	維持	広域的な応援体制の枠組	座	大規模災害時の広域的な応援体制の全体像と国民等からの義捐物資・義援金の受入について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関の間で行われる広域的な応援受援の仕組みを説明できる。 自治体間の応援受援を円滑に行うための留意点を説明できる。 義捐物資や義援金の受け入れの留意点を説明できる。
7	国における応援体制	維持	国による災害応急対策	座	緊急消防援助隊を始めとする大規模広域災害時の国による広域的な災害応急対策について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急消防援助隊の救助活動の概要について説明できる。 大規模広域災害時の国による広域的な災害応急対策を説明できる。
8	自衛隊の災害派遣	維持	自衛隊の災害派遣	座	災害事例等から、自衛隊の活動を例に、広域的な応援受援の実態と課題について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 自衛隊の災害派遣における任務の概要を説明できる。 自衛隊の災害派遣における被災者支援活動の実態を説明できる。 災害対応に関する自衛隊と多機関との連携の取組の例を挙げられる。
9	広域応援・受援 ワークショップ	維持	広域応援・受援 ワークショップ	演	大規模災害時の広域的な応援および受援活動の実施における留意点などを演習形式で考える。	<ul style="list-style-type: none"> 広域的な人的・物的支援を受け入れる際の留意点を具体的に説明できる。 多様な機関・団体と連携して業務を実施する際の課題と留意点を説明できる。
10	全体討論	維持	全体討論	演	防災力アップのため、災害時の物資物流と広域的な応援体制について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

⑥ 「避難所運営・被災者支援」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	避難収容と被災者支援の枠組	維持	被災者支援の全体像	座	被災者支援の全体像を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災者支援の業務の流れを説明できる 被災者支援において果たすべき機能を説明できる 被災者支援の担い手について説明できる 被災者支援の場について説明できる 生活再建支援の全体像について説明できる
2	避難収容と被災者支援の種類と内容	維持	災害救助法と生活再建支援法	座	災害救助法と生活再建支援法の位置づけ、被災者支援のための災害救助法と生活再建支援を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 法律の主旨を説明できる 対象範囲を説明できる 適用条件を説明できる 災害救助の種類と手続きの概要を説明できる 生活再建支援の種類と手続きの概要を説明できる
3	広域一時滞在と被災者への情報提供	統合	避難生活の支援	座	避難生活の支援が果たすべき機能を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難所／避難場所にそなえるべき機能を説明できる 衣食住に係る支援を説明できる 医職趣に係る支援を説明できる 情報提供に係る支援を説明できる 福祉避難所／避難スペースを説明できる
4	仮設住宅の確保	拡充	多様な主体による被災者支援	座	専門職能における被災者支援を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 自衛隊による被災者支援を説明できる 警察による被災者支援を説明できる 消防団、民生・児童委員による被災者支援を説明できる ボランティアによる被災者支援を説明できる 災害時要援護者支援を説明できる
5	要配慮者への対応	拡充	避難所のライフサイクル	演	避難所のライフサイクルを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難所・福祉避難所の指定をためす 避難所の開設をためす 避難所の空間設計をためす 避難所運営に係る支援をためす 避難所解消に係る支援をためす
6	避難所運営ワークショップ	統合	避難所以外の避難生活	座	施設避難、在宅避難を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 医療・福祉・教育施設における避難を説明できる 旅館・ホテルにおける避難を説明できる 在宅避難に必要な支援を説明できる 医療・保健・福祉資源による支援を説明できる 障がい者の避難実態を説明できる
7			仮設住宅のライフサイクル	座	仮設住宅と借り上げ仮設住宅のライフサイクル、他の仮住まい形態を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 用地確保から仮設住宅確保までを説明できる 入居受付から仮設住宅解消までを説明できる 住居確保、入居、解消までを説明できる 施設における緊急的な入所を説明できる 血縁、社会縁における仮住まいを説明できる
8	被災者への医療活動	維持	医療による被災者支援	座	医療による被災者支援を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災者における医療支援の必要性を説明できる DMATによる被災者支援を説明できる 救護所における被災者支援を説明できる 避難所における被災者支援を説明できる こころのケアを説明できる
9	被災者生活再建支援	統合	被災者支援の個別課題	座	被災者支援の個別課題を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 避難後の孤立解消の実際を説明できる 遺体処理の実際を説明できる 帰宅困難者対策を説明できる 広域避難の実際を説明できる 生活再建の実際を説明できる
10	全体討論	維持	全体討論	演	机上にて支援業務を計画する。	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたシナリオにおける被災者の状況を理解できる 被災者のニーズを理解できる ニーズにこたえるために必要な支援業務をあげることができる 優先して取り組むべき業務を選択できる それらの過程について、議論ができる

⑦「復旧復興」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	復旧・復興総論	維持	復旧・復興総論	座	被災者の復旧・復興プロセスの全体像について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 復旧・復興期の概要を説明できる。 復旧・復興期のプロセスを説明できる。 復旧・復興期における地方自治体の役割を説明できる。
2	被災施設・設備の応急復旧	維持	被災施設・設備の応急復旧	座	復旧・復興の前提となるライフラインや道路機能の応急復旧、及び社会基盤の復旧復興を行う上で基本的な知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 生活や地域機能を応急復旧するための施策の概要を説明できる。 社会資本の災害復旧の概要を説明できる。 被災施設・設備や社会基盤の復興の概要について説明できる。
3	災害廃棄物処理	維持	災害廃棄物処理	座	復旧・復興の出発点となる災害瓦礫の撤去とその処理の実態について、事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生後の災害廃棄物処理の意義を説明できる。 災害発生後の災害廃棄物処理業務の概要を説明できる。 被災者に配慮したガレキの対応を説明できる。
4	復旧・復興推進上の課題と事前の復興対策の意義	維持	住まいと生活の再建	座	被災者個人の生活復興とその基盤となる被災者の住まいの再建について、事例に基づき学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災者個人の住まいの再建の概要について説明できる。 被災者個人の暮らしの再建の概要について説明できる。
5	経済復興支援と被災者の雇用支援	維持	経済復興支援と被災者の雇用支援	座	地域社会の活力と被災者の雇用の確保につながる経済復興について基礎的な知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生後における経済の特徴を説明できる。 災害発生後における経済復興支援の概要を説明できる。 過去の災害における経済復興支援の事例を説明できる。
6	復興基本計画とまちづくり	維持	復興基本計画とまちづくり	座	復旧・復興を本格的に進めるための計画策定手法と復興まちづくり事例を基に実務を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 復興計画の意義を説明できる。 復興計画とまちづくりとの関連を説明できる。 過去の災害における復興計画の策定とまちづくりの事例を説明できる。
7	住まいと生活の再建	維持	復旧・復興推進上の課題と事前の復興対策の意義	座	復興施策の推進にあたっての課題を理解するとともに、事前の復興対策の取組の意義について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 過去の災害における復興期の課題を体系的に説明できる。 復旧復興期のために事前に取り組むことについて説明できる。 復旧復興のモニタリングの重要性について説明できる。
8	復旧復興計画策定ワークショップ	維持	復旧復興計画策定ワークショップ	演	復興計画策定プロセスの理解と復興施策の推進のための復興本部体制のあり方について、演習形式で考える。	復興計画の作成過程の一連の流れを説明できる。また、復興計画策定および復興施策推進の体制について説明できる。
9						
10	全体討論	維持	全体討論	演	防災力アップのため、復旧復興について学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

⑧「計画立案」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	組織マネジメント	維持 →	組織マネジメント ・事業継続マネジメント	座	組織におけるリスクマネジメントの重要性と事業継続の手法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応における指揮調整システムの概要について説明できる。 作戦の立案に必要な体制について説明できる。 災害対応と事業継続マネジメントとの関係について説明できる。
2	被害予測・被害軽減	コース変更 ⑩総合	新規 災害対策の検討と ステークホルダー	座	災害対策の検討と危機対応に必要な支援機能と組織間連携の考え方を学びます。	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応に必要な支援機能と組織間連携を説明できる。
3	情報収集・分析演習	維持 →	情報収集・分析演習	演	情報収集と分析手法について、地理空間情報を活用した災害対応を演習形式で学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 組織的に、情報を収集し、分析し、意思決定する方法を説明できる。 情報の集約分析における、地図情報等の活用方法を具体的に説明できる。
4						
5	計画立案・意思決定	維持 →	作戦立案の理論と手法	座	意思決定を行う上で、目標管理型災害対応の理論と対応計画立案手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> トップダウンによる作戦実行のための目標設定の考え方を説明できる。 作戦立案の理論と手法を説明できる。 作戦立案の理論と手法を説明できる。
6	災害対策本部 運営訓練	維持 →	災害対策本部 運営訓練	演	災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 業務分析手法を説明できる タイムラインの概念を説明できる マニュアル作成ツールを実施できる
7						
8	情報分析・実行管理訓練	維持 →	情報分析・実行管理訓練	演	災害発生時の具体的なテーマを設定し、初動～応急期における災害対応のための情報分析と実行管理の考え方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な災害対応を行う際に、目標を設定する重要性を説明できる。 適切な目標の内容を、事例を挙げながら、説明できる。 設定した目標を、組織的に管理する方法を説明できる。
9						
10	全体討論	維持 →	全体討論	演	防災力アップのため、災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

⑨「広報」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学 習 目 標
1	組織マネジメント	維持	組織マネジメント	座	災害対応に必要な「災害対応の3原則」と「活動の心構え・取組姿勢」を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 「状況認識の統一」など組織的対応に重要な取組姿勢を説明できる。 「最悪の事態を想定し行動」など組織的対応に重要な原則を説明できる。
2	災害広報（概論）	維持	災害広報（概論）	座	災害時の多様な情報提供方法、報道機関対応の概要・課題を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 予防や災害対応に関する広報の役割の概要を説明できる。 多様な報道媒体の、災害広報における役割・特徴の概要を説明できる。
3	情報対応の実態	維持	情報伝達と情報管理	座	地方公共団体の災害広報における「広報内容の検討」の手順と方法を事例をもとに学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災自治体による広報活動の実態を事例から説明できる。 災害時の行政機関による広報の内容・方法等を説明できる。 災害時の広報活動を適切に実施するための情報処理のポイントを説明できる。
4	広報資料作成訓練	維持	広報資料作成訓練	演	仮想地域における直下型地震のシナリオを設定した図上演習を行いながら、地方公共団体の広報資料（被害報）の作成を中心とした災害対策本部運営手法について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災地の広報における伝達内容について、ポイントを具体的に説明できる。 住民の視点による広報資料を作成のためのポイントを具体的に説明できる。
5						
6	模擬記者会見	維持	情報対応の実態	座	過去の災害事例を基に、災害報道が社会に及ぼす影響について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災した地域社会における報道の効果や影響について事例から説明できる。 災害広報における、地域メディアの役割・特徴を説明できる。 被災社会における効果的な広報を実現するための事前対策を説明できる。
7			マスコミ対応の実態	座	過去の災害事例を基に、報道関係者から災害報道の実態について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 被災地における報道機関の実態を事例から説明できる。 発災時に、報道機関を通じた広報を適切に行うための留意点を指摘できる。 報道機関を通じた広報を適切に行うための、事前の備えを説明できる。
8	情報伝達と情報管理	維持	模擬記者会見	演	地方公共団体の長や幹部は、被災者にどう向き合い、どう語るのかを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 記者会見におけるポイントを、視聴者の立場から説明できる。 記者会見時の内容（発言・態度等）に関する留意事項を説明できる。 記者会見の進行・運営における留意事項を説明できる。
9	マスコミ対応の実態	維持				
10	全体討論	維持	全体討論	演	防災力アップのため、災害対応における広報について学んだことを、災害時の広報業務にどのように反映させるのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。

⑩「総合」コースの単元の見直し

No.	平成27年度第1期単元		平成27年度第2期単元	手法	単元の概要	学習目標
1	組織マネジメント	維持	総合管理体系	座	災害対応における組織マネジメントの重要性を学ぶ。	・ 災害対応における総合管理の基本的な考え方を説明できる。
2	本部組織体制・ICS	維持	⑧計画立案 コース変更 ハザードとリスク・脆弱性	座	災害対応マネジメントの前提条件となるハザードとリスク・脆弱性について学びます。	・ ハザードとリスク・脆弱性について説明できる。
3	計画立案・活動調整	統合	クライシスマネジメント(ICS)	座	災害対応マネジメント組織における標準的な体制(ICS)や対応手法の理論を学びます。	・ 災害フェーズ、レベルに応じた構築体制について説明できる ・ 災害対応の活動単位と、組織の明確化・標準化の必要性と効果を説明できる ・ ICSの概要を説明できる
4	災害対策本部 運営訓練	統合	新規 災害対策本部空間配置	演	災害対応マネジメントを行う場所としての災害対策本部のレイアウトの重要性、また適切なレイアウトの考え方について、演習形式で学びます。	・ 災害対策本部のレイアウトの重要性を説明できる。 ・ 災害対策本部のレイアウトの考え方について説明できる。
5						
6	情報分析・実行管理訓練	統合	災害対策本部 運営訓練	演	災害対応時の具体的なテーマを設定し、初動～応急期における災害対応のための情報分析と実行管理の考え方を学ぶ。	・ 災害対策本部各班の空間配置での設計方針を説明できる ・ 与えられた条件の中で、適切なレイアウトを考えられるようになる ・ 本部のレイアウトを見て、その良否を理由をあげて説明できる
7						
8	模擬記者会見	終了	新規 組織への適用 (マニュアル作成手法実習)	演	災害対応をプロジェクトマネジメントの枠組みで理解し、実効性の高いマニュアルを作成するための手法および概念を演習形式で学びます。	・ 災害対応におけるプロジェクトマネジメントの枠組みを説明できる。 ・ 実効性の高いマニュアルを作成するための手法および概念を説明できる。
9						
10	全体討論	維持	全体討論	演	防災カアップのため、災害対応マネジメントについて学んだことを、受講者が担当する業務にどのように反映させるのかを考える。	・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。